

## インナーミルの使い方

### インナーミルとは

有機系の複合型防カビ剤でその配合比率が微生物に広く圧倒的な抑止効果(253 菌の抗菌スペクトラムを持っている)を生む薬剤のノウハウとなっていますが、複合前のこれら輸入された単品・ケミカルは各国の物質リストに安全記載を各々有しております。

また日本に入って来る際に経産省の物質リスト『MITI』に再度照らし合わされ、輸入を許可された物質のみで構成されています。

そうして国内で掛け合わされた複合剤『インナーミル』は(財)日本食品分析センターの一連の安全データ(経口毒性試験、皮膚刺激性試験、眼刺激性試験、変異原性試験など)を有しており、またリーチなどの厳しい基準の『既存化学物質規制対象リスト』にも一切含まれない、極めて安全性の高い薬剤という事が出来ます。

基本的には建築用の仕上げ材や塗料などに混入して使用します。

基は粉体(有効成分 100%。樹脂製品には 0.3~0.5%混入)ですが塗料などの水性素材に混入しやすい水分散タイプ(インナーミル 550)などの薬状があり、現場では対象仕上げ素材に定量(重量比率 2~4%)を添加(混入)して使用(抗菌・防カビ効力を付与)する事が出来ます。

現在『インナーミル 550:砂場用』は公園や幼稚園の砂場の『抗菌・防カビ化』に使用されて早や十数年が経ち、全国数千箇所に及ぶ施工実績を重ねておりますが全くのノークレームで経過しております。

### 防カビ・抗菌剤の施工・使用例

#### ① 『戸建住宅床下・集合住宅地下ピット部分の防カビ』

床下や地下ピットは気温と湿度の上昇に伴ってカビの発生が多くみられます。

そういう時には既存カビ発生部分の有無を問わずインナーミル 550 を 80~100 倍に水で希釈して対象部分に噴霧するとしっかりした防カビ効果を得る事が出来ます。

この方法は天井裏などへの漏水に際しても同様で、開口して対象部分に広く噴霧を施し乾燥させる事で簡単に防カビ効果が得られます。

#### ② 『木の素地』

木用浸透性吸水防止剤に『インナーミル 550』を重量比 3~4%混入して塗布・浸透させる事により木部に防カビ能力を付与出来ます。

### ③『石やモルタルの素地』

石用浸透性吸水防止剤に『インナーミル 550』を重量比率 3～4%混入して塗布・浸透させて石材表面に対する微生物の発生を防止出来ます。

### ④『家具表面・畳表』

透明系アクリル樹脂塗料に『インナーミル 550』を 3～4%混入して抗菌・防カビコーティングを行う（風合いを全く変えない防カビコーティング）事により、仕上げ材表面の『簡易防カビ化の実現』が可能となります。

### ⑤『既存壁紙(クロス)』

クロスの張替えに際して既存クロスを剥いだ後、ボード下地にインナーミル 550 で『防カビ下塗り』を施し、次にクロスの糊に『インナーミル 550』を重量比率で 3～4%混入して良く攪拌してクロス貼り仕上げを行います。

この様に下から起きて来ようとするカビには防カビ下塗りで、上から乗って来るカビには仕上げ材として使用する事で微生物を立体的に抑止して行く事が可能となります。

### ⑥『カビ止め下地材として』

『インナーミル 550』を水で 10 倍に希釈して壁などの下地に施す事で、既に下地に入り込んでしまった微生物をしっかり上から押さえ込む事が出来ます。